

「市民先生」放課後に活躍

こどもたちの居場所、遊び方、遊ばせ方…。今の親世代がこどもの頃とは大きく変わった。放課後の過ごし方や地域とこどもたちとの関わりなどについて、N

PO法人「放課後NPOアフタースクール」＝事務局・東京都＝の代表理事、平岩国泰さん(37)に聞いた。

東京のNPO法人・代表理事の平岩さんに聞く

シエフ、建築家、弁護士…

特技を生かして授業

「外で遊びなさい」。こどもは外で遊び、地域の大人が見守る。そんな言葉で育ち、親によく言われていた言葉です。そなかつての姿はほぼ消えれから随分と社会環境も変わりました。今では、「家で遊んでほしい」「居場所を確定させたい」と思う親御さんが少なくないようです。



平岩国泰さん

そこには市民という第三者が加われば、教育の質はうんと高まります。私はNPO法人で代表理事をしています。さまざまな仕事や特技を持つ



「市民先生」の弁護士の指導で模擬裁判を行う児童たち＝東京都中野区の新渡戸文化小学校

地域と学校の橋渡し役必要

大人に声を掛け、「市民先生」として放課後の学校に来てもらっています。シエフの料理教室、プロ選手のサッカー教室、建築家の家造り講座、ミュージシャンの演奏会…。5年間で150種類以上のプログラムを展開し、1万5千人以上のこどもが参加してくれました。先日、小学校で「裁判」

こども
ゴドモ

を扱いました。市民先生は弁護士。こどもたちは検察官と弁護士、裁判官に分かれ、刑事事件の模擬裁判を行いました。「目撃者」と「被告人」に次々と質問が投げ掛けられ、裁判官を務めた児童が悩みながら判決を下しました。最後に市民先生が、こんなメッセージをくれました。「きょうの判決は一つの結論。初めから決まっていることではない。社会には『1+1=2』のような正解はほとんどなく、みんなが最も正しいと思うことを決めて進む。だから、世の中の出来事に『自分がどう思うか』を大切にしてほしい」。なかなか親や先生では伝えられないことだと思います。

かつて料理のプログラムに参加した少年が、プロの料理人を目指していることを最近知りました。人生の先輩の姿に自分の目標を発見したので、立派な料理人になり、市民先生として後輩たちの元に戻って来てくれる日を夢見しています。